

## 平成14年度半島地域活性化優良事例表彰受賞団体及び事例の概要

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	サイクルシティかせだ推進協議会
国土交通大臣賞 国土交通大臣 扇 千景	鹿児島県	薩摩 (加世田市)	事例名	自転車を活用したまちづくり
<p>[概要]</p> <p>加世田市は、薩摩半島の南西部に位置し、市の北西部には日本三大砂丘の美しい吹上浜が広がっている。健康や地球環境への関心の高まり等から、平成7年に日本初の「サイクルシティ誓言」を行い、「健康な暮らしの実現」、「リサイクルの推進」、「高齢者・障害者にやさしい町並みの形成」、「賑わいづくりと交流促進」等を、バイコロジー運動やイベント等を通じて推進している。</p> <p>「サイクルシティかせだ推進協議会」は、自転車を活用したまちづくりを進めるため、平成8年に市内外の26の行政機関・民間団体により設置され、サイクリング大会、身障者の試乗会、自転車のアート展、鉄道跡地を利用したモデルコースの設定等の事業を実施している。また、平成13年には本協議会を中心に「世界室内自転車競技選手権大会」も開催している。</p> <p>これらイベント等は、本協議会の会員でもある「かせだサイクリング倶楽部」を中心に地域の住民も含めたボランティアが積極的に参画しており、自転車を活用したまちづくりを通じて、地域のイメージアップや地域住民の活性化が図られている。</p>				

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	長崎大島トライアスロン大会実行委員会
半島地域振興対策協議会長賞 (会長) 和歌山県知事 木村 良樹	長崎県	西彼杵 (大島町)	事例名	長崎大島トライアスロン大会
<p>[概要]</p> <p>大島町は、西彼杵半島の西方約4kmの海上に位置し、九州本土と大島大橋でつながっている1町1島の町である。選手の勇気と熱意が観客に感動を与えるトライアスロンを通じて、全国からの参加者との交流による島内青少年の活性化と資質の向上を図り、町民全体の地域おこしにつなげることを目指して、平成5年から「長崎大島トライアスロン大会」を開催している。</p> <p>「長崎大島トライアスロン大会実行委員会」は町体協、婦人会、老人クラブ、青年団、商工会、漁協等から選出されたメンバーにより構成され、行政とも連携を図りながら、事業主体として大会の企画・運営に当たっている。</p> <p>大会は、子供や初心者に参加できる「キッズの部」や「チャレンジの部」、気軽な参加が可能な「リレーの部」の設定など工夫を行っている。また、コース清掃や除草作業に2千人以上の町民が参加し、準備から当日の運営に至るまで多数のボランティアが協力しているなど、開催回数が10回を数え「町民総参加の地域おこしイベント」として確立したものになっている。</p>				

<b>賞名（表彰者）</b>	<b>道府県名</b>	<b>地域名</b>	<b>団体名</b>	NPO法人 なまはげエリア創造委員会
半島地域振興対策議会議長連絡協議会長賞 （会長） 石川県議会議長 矢田 富郎	秋田県	男鹿(男鹿市)	<b>事例名</b>	ナマハゲたいまつアート 「寒風山に燃えるなまはげ創ろう！！」

**[概要]**

男鹿市は、秋田県の中西部の男鹿半島に位置し、国内で唯一の一市単独で国定公園の指定を受けるなど、優れた自然景観を有する地域である。また、大晦日の夜に「泣く子はいねがぁ」と奇声を上げながら家々を練り歩く「なまはげ」で有名な地域でもある。

「NPO法人 なまはげエリア創造委員会」は、男鹿市観光協会の観光ガイドボランティアとして集まったメンバーが、地域を活性化させる活動にも取り組む団体として平成12年に結成したものであり、男鹿市のほか隣接する天王町、若美町、秋田市の住民有志で構成されている。なまはげの出前やイベントの企画、ガイド派遣を通じて文化資源の保存、普及を図っている。

「ナマハゲたいまつアート」は、本地域の観光拠点の一つである寒風山の斜面に、なまはげの顔をたいまつで描くイベントである。毎年開催される「寒風山まつり」と共催イベントとして実施され、なまはげの絵柄やイベント協力者を一般公募するなど、地域住民の多数の参加が図られるようにしている。また、文化資源を素材にし、地域内外へのPRにもなっている。

<b>賞名（表彰者）</b>	<b>道府県名</b>	<b>地域名</b>	<b>団体名</b>	砂浜美術館
全国半島振興市町村協議会長賞 （会長） 北海道知内町長 脇本 哲也	高知県	幡多(大方町)	<b>事例名</b>	美しい砂浜が美術館

**[概要]**

大方町は、高知県の西南部の幡多半島に位置し、ゆるやかな曲線を描く海岸線と緑豊かな丘陵が扇状に広がる農業と漁業の町である。近年はホエールウォッチングでも賑わい、海岸近くで泳ぐニタリクジラやイルカの群に出会うこともできる。

「砂浜美術館」は、町の住民が自らの地域を見つめ直し、地域の個性を活かした地域づくりを進めようとの思いから、漁協、農協、商工会の代表や有志により結成された団体である。「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」というキャッチコピーの下、長さ4kmの美しい砂浜を美術館に見立て、施設などのハードに頼らない地域づくりを進めている。

14回の開催を数える「Tシャツアート展」には、毎回全国から約1千点の作品応募と会期中5千人の来場者、多数のボランティア応募があり、町のPRに貢献している。また、「漂流物展」や「潮風のキルト展示」、エコツアーの実施など、何気なく見過ごしている資源に新しい価値観を創造することを通じて、自然環境の保全や教養・文化振興などの分野と連動した取組を行っている。